



豊後大野市地域おこし協力隊の日浅紗矢香さん(26)が、空き家問題などをテーマにしたフリーペーパー「ぶんごHOME」を発行しています。

① 日浅さんがフリーペーパー「ぶんごHOME」を発行している理由は？

適切な管理をしていない空き家が多いと気付いたのがきっかけ。「放置しているとすぐに老朽化する。空き家になる前から対策が必要なることを知ってもらいたい」と考えた。県外出身者の目線で市内の魅力なども発信することで移住者の増加につなげたいと思っているから。

地域おこし協力隊員・日浅さん



夏に第3号を発行する予定のフリーペーパー「ぶんごHOME」

福岡県久留米市出身。2018年に夫の聡士さん(27)と宮崎市から移住し、協力隊員に就任した。豊後大野市まちづくり振興課で移住・定住に関する業務を担当している。

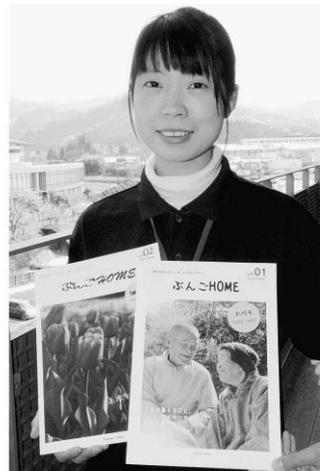
フリーペーパーの発行は、適切な管理をしていない空き家が市内に多いと気付いたのがきっかけ。「放置しているとすぐに老朽化する。空き家になる前から対策が必要なることを知ってもらいたい」と考えた。

取材、執筆、写真撮影、レイアウトなどの全てを一人で担当している。空き家問題について専門家にインタビューし、課題

【豊後大野】豊後大野市地域おこし協力隊の日浅紗矢香さん(26)が、空き家問題などをテーマにしたフリーペーパー「ぶんごHOME」を発行している。今年1月から2回作製。県外出身者の目線で市内の魅力なども発信し、移住者の増加につなげる。

豊後大野版「フリーペーパー」

魅力移住者の目で



空き家問題をテーマにしたフリーペーパーを発行している豊後大野市地域おこし協力隊の日浅紗矢香さん(豊後大野市役所)

空き家対策、詳細に

なを分かりやすく掲載。空き家の利用促進を願い、移住者や移住希望者に豊後大野の魅力を知ってもらった。地元で活躍する人、方言、珍しいマンホールを紹介するコーナーもある。

A4判8頁、カラー、500部作り、市外からの来訪者が多い市内のカフェなどに置いていく。「春になると里山の木々が一斉に芽吹き、夜になったら月の明るさを感じられるなど自然が豊か。

「春になると里山の木々が一斉に芽吹き、夜になったら月の明るさを感じられるなど自然が豊か。」と日浅さん。フリーペーパーは同市の移住定住ポータルサイト「ぶんごおの暮らし」でも見ることができ、益に帰着する人に向け、夏に第3号を発行する予定。(山田志朗)

2020年5月29日付
大分合同新聞 14面

② 「ぶんごHOME」はどんな内容でしょう？

空き家問題について専門家にインタビューし、課題などを分かりやすく掲載。空き家の利用促進を願い、移住者や移住希望者に豊後大野の魅力を知ってもらった。地元で活躍する人、方言などを紹介するコーナーもある。

③ 福岡県出身で宮崎市から移住して来た日浅さんは、豊後大野の魅力をどう感じていますか？

春になると里山の木々が一斉に芽吹き、夜になったら月の明るさを感じられるなど自然が豊か。

④ あなたが地域外の人にあなたの地域の魅力をPRするとすればどんなことをアピールしますか？
考えてみよう。

自然環境やおいしいもの、特産品、伝統産業、地域の人たちの優しさ、など自由に考えてみよう。